

「逆境の中でこそ成長する」

校長 桐野 和之

「丸木小屋で生まれ、小学校を中退し、社会に出て会社を創立するがすぐに破産、さらには不幸な結婚をし、上院、下院議員に出馬しても何度も落選する」・・・これほど、度重なる挫折を経験した歴史上の有名人がいます。皆さんは誰だか知っていますか。

どうみても輝かしいとは言えない経歴をもったこの人こそ、アメリカ史上、最も偉大な大統領と呼ばれるエブラハム・リンカーン、その人です。

アメリカの高校の教科書では、奴隷解放の偉大な業績があった大統領ということもさることながら、すさまじいほどまでの逆境を克服した人として紹介されているそうです。私も、このアメリカの高校の教育方針は大賛成。もちろん、もちろん数学や英語等をきちんと教えることも大切です。



しかし、それ以上に、いろいろな困難な場面に出会った時、それをどう切り抜けるか知らせておくことがもっと大切だと思うのです。それが本当の学力を身に付けることだと思うのです。

というのは、人は誰でも、大小の差はあったとしても、また、好むと好まざるにかかわらず、勝負しなければならない場面が多いからです。しかも、勝負した場合、勝つことよりも負けることの方が遥かに多いと思って間違いないでしょう。常に勝ち続ける人生など、絶対にあり得ないのです。



皆さんの中には、「負けることの多い人生なんてつまらない」と感じる人もいるかもしれませんが、そこが人生のおもしろいところなのです。恵まれた環境に置かれたおかげで、もてる素質が開花することもある反面、厳しい環境、いわゆる逆境にぶつかったおかげで成長、飛躍のバネになることも多いのです。苦勞することが、人間の器量を大きくし、魅力を増すのです。

今、どの家庭でも、子どもの数が少なくなりました。それにしたいが、各家庭では子どもをとて大切に育てています。様子を見てみると、私には大切にすることと、甘やかすことを同じだと勘違いしているように思うことがあります。

人間を駄目にする一番効果的な方法は、「好きな食べ物をたらふく食べさせ、毎日テレビやマンガを好きなだけ見せて、眠りたいだけ眠らせる」ことです。要するに、好き放題にさせておき、絶対に叱らないことなのです。そうしたらどんな人ができあがるか、皆さんもだいたい想像がつくのではないですか。

人は、人と人の中でいろいろな規制を受けて、初めて「人間」になるのです。規制が強いことを「逆境」といい、そのことが人をたくましい「人間」として成長させるのです。



何も自分から逆境に身をおけるとまでは言うつもりはありません。しかし、逆境を恐れることなく、むしろ、活用できる人であってほしいと思います。ピンチをチャンスに変えることができる人って素晴らしいと思いませんか。

「夏休みの苦い思い出」

同窓会会長（第7回卒業生）比田井 雅博さん

中学校時代の苦い思い出の一つ。中1か中2の夏休み、同級生（クラスは違っていても）4人でキャンプに行こうという話になり、大した準備もせず、夜明け前に自宅を出て、阿佐ヶ谷まで歩き、中央線の下りで五日市の終点で下車、そこから秋川溪谷沿いに山の方へ向かった。秋川溪谷から奥多摩の方へ抜ける予定だったか？50年近く昔なので記憶は曖昧。

昼過ぎから雨が降り出し、それもだんだん強くなる。ある河原にテントを設営したものの、川の水が次第に増水してテントの底が浸水しはじめ、このままでは危ないと、広げた荷物をまとめ、雨の中、下流の方向に歩いていると、ライトバンで通りかかった地元の人が声をかけてくれた。台風で？これから天候が悪くなる、今夜は近くのバンガローに泊まって明日は帰った方がいい、と忠告してくれた。親切にもバンガローまで車に乗せてもらい、その夜は飯ごうで炊いた御飯と持ってきた缶詰で空腹を満たした——恥ずかしい話だが、こんな失敗談は数えればキリがない、すべては無計画がなせるわざで、今に至っている気がします。

夏休みを前にして、悪い見本を示しました。ただ、半世紀も経つと、どれも良い思い出となってしまいます。そこには必ず、温（ぬく）い人々がいたから、そう思えるのかもしれない。貫井中の皆さんは、この夏休み何をしますか？受験勉強、部活動・・・他にもいろいろなことに興味をもち、周囲の人に感謝の気持ちをもって、日々大切に生きてほしいと思います。

1年生 熱中症予防の講習

6月19日(月)の第1校時に武道場で、1年生を対象にした熱中症予防の講習が、主任養護教諭の伊藤 由布子先生により実施されました。

熱中症とは暑い環境の中で起こる障がいの総称で、重い症状になると、死に至る場合もある。しかし、正しい知識をもち、実践することで熱中症を防ぐことができる。このようなお話がまず冒頭に先生からありました。

授業の目的は、(1)自分が熱中症にかからないようにする。(2)周囲の人が熱中症にかからないようにする。(3)熱中症にかかった人を助ける。これらの3点でした。特に注意が必要な人は、乳幼児、児童・中高生、高齢者、キッチンで火を扱う人、スポーツをする人、屋外で働く人、と紹介がありました。また、中高生で、熱中症にかかりやすい場面の紹介や注意もDVDを鑑賞しながらありました。特に、屋内外の運動部活中、観戦、応援中、校外での試合の行き帰り、文化部の部活中、宿泊行事中など、いろいろな場面で気をつけなければならないことがあると、話があり、授業ではさらに、スポーツ活動中の熱中症予防5か条を教えてもらいました。



(1)暑いときは無理な運動は事故のもと。(2)急な暑さに要注意。(3)失われる水と塩分を取り戻そう。(4)薄着スタイルでさわやかに。(5)体調不良は事故のもと。このようなことが指導されました。また、学んだことを家庭に持ち帰り、熱中症についてお家の人にも説明しましょうと、先生から話がありました。

7月の21日からは皆さん待望の夏休みに入りますが、やはり暑い夏には十分な熱中症対策が必要です。全校生徒の皆さん、熱中症に対してしっかり対策し、楽しい夏休みを過ごしてください。

海外派遣生としての抱負

2年C組 青田 朗真

私はこの海外派遣の準備で、たくさんの方にお世話になりました。だから私は、そのことを胸に、オーストラリアに旅立ちたいと思います。

全6回の事前研修会のなかで行われた英会話研修では、ALTの先生や、同じグループ仲間と自ら積極的に話すことを心掛けました。英会話研修のグループの中で私は唯一の2年生ということで、3年生の先輩方に比べ知らない単語や言い回しも多く、課題の英作文を書く時には嶋貫先生をはじめとする英語科の先生方にはたいへんお世話になりました。



また、オーストラリアについての事前学習を進めていて、つまりいた際には社会科の安西先生にもお世話になりました。

そして、パソコンを利用するときに監督をしていただいたり、教育委員会に事前学習の課題を送付していただいたりするなど、副校長先生には、広範囲にわたって面倒を見ていただき本当に感謝しています。

このように、海外派遣の準備だけでもたくさんの先生方などにお世話になっていることが改めてわかりました。また、海外派遣生という今の私があるのも皆さんのおかげでもあります。これまでのことを、胸に刻み込み、実力を発揮する場であるオーストラリアに旅立ちたいと思います。これまでにお世話になった先生方など、ありがとうございました。

3年A組 片山 莉那

中学に入学して、練馬区では毎年夏休みに海外派遣事業で、オーストラリアに行くということを知りました。その時から、もし機会があるのならば、参加してみたいと思っていました。

私がオーストラリアに行きたいと思った理由は3つあります。

1つ目は、オーストラリアの空はとてもきれいだと両親から聞いており、自分の目で見たかったからです。



次に、自分が勉強してきた英語で、オーストラリアの人々とコミュニケーションをとってみたいと思ったからです。そしてより英語ができるようになるにはどうしたらいいか考えてみたいと思います。

最後に、オーストラリアの人々の暮らし、文化を知りたいからです。どんな学校生活なのか？食生活はどんな感じなのか？といったことに興味があります。オーストラリアの先住民「アボリジニ」の事も知りたいと思います。スーパーマーケットに行くと野菜や果物、肉の種類も知りたいと思います。1週間で欲張っているかもしれませんが、この機会にさまざまな経験してきたいと、決意を新たにしています。

地図を見ても、本当に広く大きな国オーストラリアを「文化」、「自然」、「人々」から感じられるように頑張りたいと思います。

情報モラル講習会終えて

7月7日(金)6校時、LINE株式会社の松竹谷尚子様を講師に第2学年生徒を対象にした情報モラル講習会が行われました。コミュニケーションは「言葉のキャッチボール」ということで、実際に代表生徒がキャッチボールをし、どんなことを考えて投げたかを考えました。相手の立場や状況を考えてボールを投げるように、メールやラインを使って会話するときも相手を思いやる気持ちが大切であることを、具体的な事例や写真を見

ながら、何が良いのか悪いのかを一緒に考え、学びました。

また第二部の保護者向け講習会では、テキストを使ってインターネット利用の注意事項やLINEの実態や対策などの説明を受けた後、具体事例について話し合いをしました。60分という短い時間でしたが、有意義な時間を過ごすことができました。

学校評議委員会より

7月10日(月)午後5時より、本校学校評議員の比田井雅博様、町田教子様、田場晋様、神藤雅子様(都合により齋藤幸夫様は欠席)をお迎えして、今年度第1回目の学校評議委員会が開催されました。

本校の学校経営方針や年間予定、学校生活の様子、進路指導の状況等について説明をし、ご意見をいただきました。本校の学区は生徒数が減少していること、家族構成も様々であることが話題になりました。また、新しく発足した野球部への期待の大きさも感じました。これまで本校に大きく関わっていただいた評議員の皆様には、これからも温かく貫井中を見守っていただきたいと思います。

～部活動等結果～

○陸上競技／東京都中学生総合体育大会 陸上競技の部

- ・1年男子走り幅跳び／安納隆一郎 5m00 第9位⇒通信大会へ進出
- ・共通男子走り幅跳び／那須 耀斗 1m79cm 第4位⇒通信大会へ進出
- ・共通男子 110mH 坂本 翔 17秒73⇒通信大会へ進出
- ・低学年4×100m 杉淵・関口(晃)・成田・安納 50秒04

○柔道 練馬区中学校生徒総合体育大会 柔道競技の部

<男子団体> 貫井5-0上石 貫井4-1光二 団体優勝!

<女子団体> 貫井 3-0上石 団体優勝!

<男子個人>

55kg級 奥津 颯斗/3位 66kg級 柳 修平/2位 73kg超級 小池邑飛/優勝

<女子個人>

48kg級 藤本華音/優勝 52kg級 川村るん/優勝 57kg級 中出百々恵/優勝、小島 菜々子/2位
羽賀小百合/3位 57kg超級 田原 佑香/優勝 池上鈴香/2位

○バドミントン 練馬区中学校生徒総合体育大会 バドミントン競技の部

<男子団体> 貫井2-0三原台 貫井2-0谷原 貫井0-2練馬東 貫井0-2石神井

<女子団体> 貫井0-2関二

<男子個人>

[シングルス]

3A関田、貫井21-10関二、貫井21-10 貫井0-2大泉 3B高島、貫井21-19八坂 貫井19-21大西 3C小林、貫井11-21北町

[ダブルス]

3B山崎、3C池上、貫井21-12大二 貫井4-21旭が丘 3A後藤、3B永瀬 貫井19-21石西 3B玄間、3C本橋 貫井21-23関四

<女子個人>

[シングルス] 2B粕屋、貫井21-17八坂 貫井8-21関二 2C松本、貫井9-21中村 1D小林、貫井22-24石神井

[ダブルス] 2A齋藤、吉良、ぬくい21-8谷原 貫井6-21石西 2C落合、藤澤 貫井10-21石西 3B荻野、3C戸叶 貫井16-21三原台

○卓球 練馬区中学校生徒総合体育大会 卓球競技の部

<男子団体> 貫井3-0練馬東 貫井0-3武蔵

<男子個人> 2年黒木一翔/ベスト32 3年関口颯斗、2年前田將基/2回戦敗退 3年吉澤玲央、

1年齋藤勇翔、長山慶信/1回戦敗退

